

# 老年病研究所附属病院家庭医療後期研修プログラム

## プログラムの概要

在宅における外来患者や往診患者の診療と治療を学ぶ。日常生活の改善を指導し、栄養管理及び服薬の方法について研修する。全ての臨床科目の基礎となるべき基本的な治療技術、治療法及びコメディカルの人々との協力により在宅の生活を可能とする方策を学ぶ。病院及び診療所の外来診療において、医療の知識、情報収集能力、総合的判断力、技能など、患者中心の医療の実践を身につける

- 1) 臨床医師としてさまざまな疾患に対応する診療技能を身につける。
  - a) 脳卒中患者の診断と早期治療について学ぶ。ことに脳梗塞の初期治療（t P A療法）を学ぶ。
  - b) 脳出血、くも膜下出血の早期診断と治療、そのためのMCTやMRI画像診断の知識を学ぶ。
  - c) 初期の冠動脈疾患の診断と治療を学ぶ、心電図、心エコー、血管検査の読み方を学ぶ。
  - d) 高齢者の消化管、呼吸器疾患の初期治療、感染症、腫瘍対策の技能を身につける。
  - e) 認知症の診断と治療、ことに認知症周辺症状への対応を学ぶ。
  - f) 高齢者のさまざまな疾患におけるリハビリテーション技能を理学療法士、作業療法士と言語聴覚師、看護師、介護福祉士とのチーム医療を学ぶ。
  - g) 高齢者の認知症や片麻痺、神経疾患の介護保険を利用した維持期リハビリテーションを学ぶ。
- 2) 救急医療を学ぶ、麻酔科医と共に蘇生術、気管内挿管、レスピレーターへの対応など小外科、止血等を身につける。
  - a) 救急外傷に対する処置を学ぶ。
  - b) 小児救急に対応する技能を学ぶ。（協力病院）
- 3) 在宅医療、診療所における往診と訪問看護、訪問リハビリテーションとその地域連携パスを学ぶ。
- 4) 栄養と食育を保つため歯科口腔外科との連携を学ぶ。
- 5) 神経疾患（脊髄側索硬化症、オリーブ橋脊髄変性症等）の在宅医療を学ぶ。
- 6) へき地診療の実践を経験し、さまざまな疾患の初期の対応と専門医との連携を保つ方策を学ぶ。

ローテーション例

12カ月

1年目	内科
-----	----

12カ月

2年目	家庭医療専門研修(前橋協立診療所)
-----	-------------------

3カ月

3カ月

3カ月

3カ月

3年目	小児科(前橋協立診療所)	救急医学	整形外科	眼科
-----	--------------	------	------	----

6カ月

6カ月

4年目	神経内科	脳外科
-----	------	-----

※家庭医療専門研修は前橋協立診療所、小児科研修は前橋協立診療所で研修を受けます。